

虎塚古墳と十五郎穴の名前と曾我兄弟



虎塚古墳と十五郎穴の名称がいっついたかはわかりません。しかしながら鎌倉時代に成立した曾我兄弟の仇討ちを描いた「曾我物語」に由来する可能性が高いと考えられます。

「曾我物語」は兄「曾我十郎祐成」と弟「五郎時致」を主役とし、兄の恋人「虎御前」が登場します。室町時代からは能や浄瑠璃、歌舞伎などの演目として人気があったといえます。江戸時代ころに人気者にあやかる伝説が生じて「虎御前」の遺跡として「虎塚古墳」、曾我兄弟の遺跡として「十五郎穴」の名称が定着したのでしょう。

ちなみに曾我兄弟は鎌倉時代の人で、古墳や横穴墓が造り使われていた時代とは異なります。



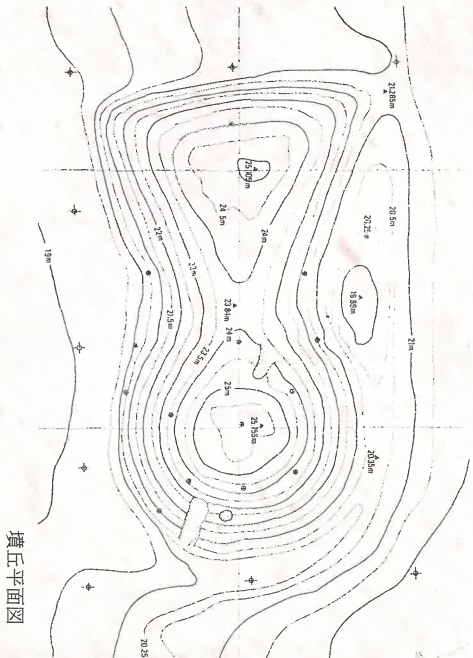
虎塚古墳と十五郎穴横穴群の場所



民有地がありますので、史跡整備された以外の土地への立ち入りはご遠慮ください。

虎塚古墳

Torazuka Kofun



墳丘平面図

古墳の概略

前方後円墳
全長 56.5m
後円部径 32.5m 高さ 5.5m
前方部幅 38.5m 高さ 5m
造られた時期 7 世紀初めころ (約 1,400 年前)

埋葬施設

形態 横穴式石室
石材 地元産凝灰岩 (部田野石)
玄室の長さ 3.0m 奥壁の幅 1.5m
高さ (中央部) 1.4m
奥壁・東壁 1 枚、西壁 2 枚、天井 3 枚、床 7 枚
玄室前羨道 長さ 1.3m 幅 1.2m
石室の入口は、高さ 1.18m、上部幅 0.9m、下部幅 1.2m の一枚岩で閉じられていました。未盗掘です。石室前の前庭部からも遺物が出土しており、追葬が行われたと思われます。

壁画

横穴式石室の内面は、表面に凝灰岩の砂粒を含む白色の粘土状の物が塗られています。赤色の顔料はベンガラ (酸化第二鉄)。天井と床面は全面赤彩されています。

文様 奥壁 三角文・環状文・武器 (槍・大刀) ・
武具 (劔・劔)
東壁 三角文・渦文・武具 (劔・盾) ・馬具・
首飾り
西壁 三角文・円文・弧線文・馬具

十五郎穴横穴群

じゅうごろうあな
よこあなぐん

横穴群

国指定史跡 令和4年2月21日指定

国指定史跡 昭和49年1月23日指定

虎塚古墳

とらづかこふん



ひたちなか市教育委員会



石室内出土遺物

出土資料

石室内 人骨 (成人男子)
漆塗り小大刀 (銀装) ・刀子・毛抜形鉄製品
やりがんな・鉄鏃・用途不明鉄製品
前庭部 鉄劔・鉄鉾・鉄環・鉄鏃 など

特徴

壁画は壁面に下書きなく描いたのではなく、すべての文様ではありせんが線刻による下書き線があり、奥壁の環状文や西壁の円文は、コンパスの原理を利用した下書き線があります。また円文や三角文のような抽象的な文様や武器や武具を描くことなどの特徴も、装飾古墳がたくさん築かれた北部九州の装飾古墳と共通しており、この地域との関連性があると考えられています。

一般公開

彩色壁画の公開を行う公開保存施設を設けています。外気の環境が石室内の温度などと近い春と秋に、日にちを限定して実物をご覧いただけます。

- 教育委員会総務課文化財室 ☎ 029-273-0111
- 埋蔵文化財調査センター ☎ 029-276-8311

すごいぞ!!

虎塚古墳・十五郎穴横穴群

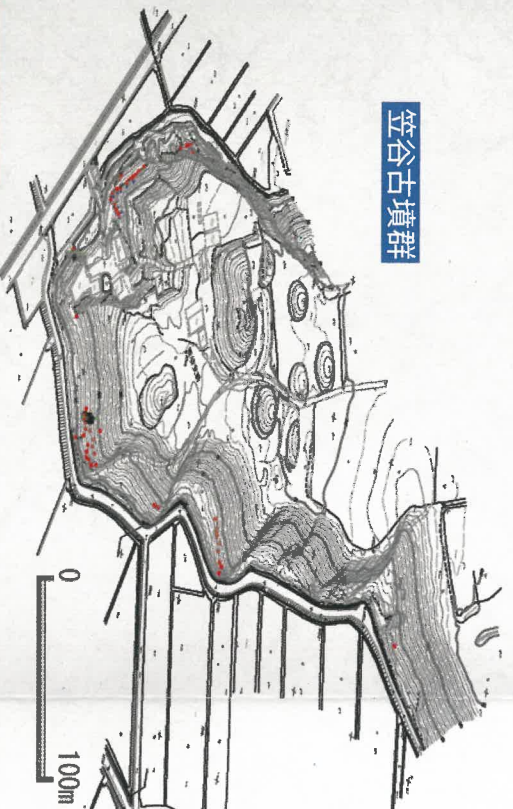
東日本屈指の装飾古墳と横穴群

虎塚古墳とは

虎塚古墳は、発掘調査により装飾古墳が発見された日本で最初の古墳です。現在は公開保存施設により時期を限定して壁面の公開を定期的に行う全国的にも数少ない古墳です。

虎塚古墳と十五郎穴横穴群は、中丸川と本郷川が合流する地域に形成されています。台地の崖面の凝灰岩は、虎塚古墳など近在のいくつかの古墳の石室に利用され、横穴墓を掘る地層にもなっています。笠谷古墳群が6世紀の後半にまず築造が開始され、次に虎塚古墳群が6世紀の末ないし7世紀の初頭に築かれ始めます。その後十五郎穴横穴群が7世紀の前葉に築造が始まり、9世紀前葉まで使用されました。

現在、笠谷古墳群は前方後円墳2基、円墳6基、虎塚古墳群は前方後円墳1基、方墳1基、多角形墳?1基、円墳1が残っています。十五郎穴横穴群はこれらの古墳群との関係性の解明が必要です。

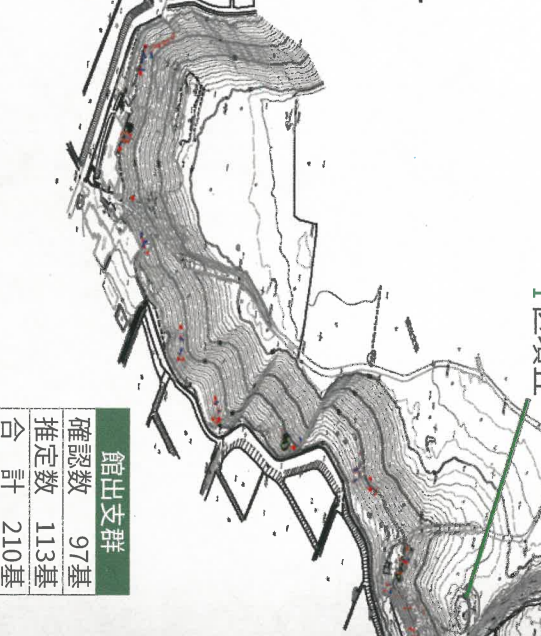


笠谷古墳群

笠谷支群	
確認数	55基
推定数	107基
合計	162基

十五郎穴横穴群のスコイとこ

- 横穴墓の推定数は500基以上… 東日本最大
- 横穴墓の形態が多様… 集団の多様性
- 薩手刀が出土… 茨城県2例目



虎塚古墳



指浪支群	
確認数	122基
推定数	27基
合計	149基

十五郎穴横穴群とは

十五郎穴横穴群は、古墳時代終末から平安時代に丘陵の斜面に横穴を掘り、亡くなった人を埋葬したお墓です。確認調査の結果、横穴墓が約1kmの範囲に分布していることが判りました。台地の状況から北から指浪支群、館出支群、笠谷支群の3群に分かれ、各支群のなかに横穴墓が集中する場所があります。横穴墓は2段～3段に構築されています。規模が大きなものや古い横穴墓は台地の先端にあり、築造順や構築の方向など当時の意識が反映されている可能性があります。

調査で確認できた横穴墓は274基(図の赤丸)です。これ以外にも多数の横穴墓が埋没していることが推測され、調査成果をもとに算出するとその数は500基以上となり、この数は東日本最大級です。

十五郎穴横穴群

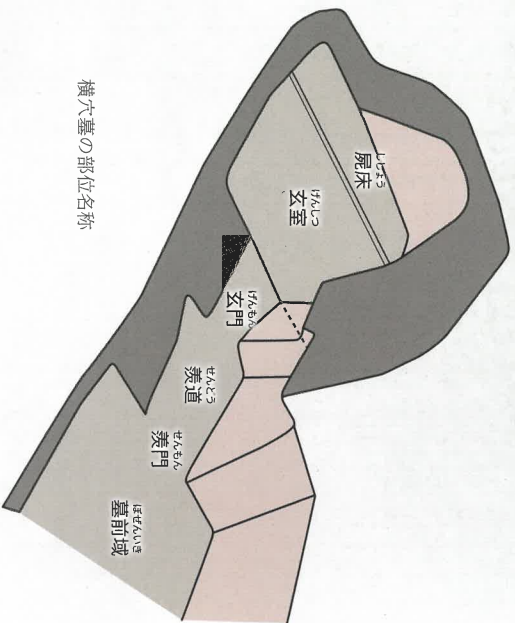
Jugoro-ana

横穴墓の構造

横穴墓は遺体を埋葬する「玄室」、玄室に通じる「羨道」、入り口前の「墓前域」に分けられます。

玄室の構造は多くの種類があり、埋葬方法や被葬者の違いが考えられます。また、大きさにも違いがあり、小型の横穴墓からは子供の骨が出土するので、子供用にも用いられました。

天井の形は、家形やボーム形、アーチ形・穹窿形・平天井と多様で、床面も平面のものや、遺体を置く部分(屍床)が高いもの、コの字に配置されるものなど、立体的な構造にも違いが確認されています。玄門部分は大きめの岩などで閉ざされていました。発掘調査では複数人の埋葬が確認されていることから、必要に応じて玄門を開けて追葬したと考えられます。



横穴墓の部位名称

出土遺物

鉄製品 銅製金具 方頭大刀・薩手刀・金銅製金具 刀子・鉄鏃・鉄釘、メノウ製勾玉、水晶製切子玉、須恵器(長頸瓶、坏、蓋、小型壺、盤)

遺物からは、7世紀前葉から9世紀前葉の年代(1,200年～1,400年前)が考えられています。

大発見! 館出支群 I区35号墓



試掘調査中に閉塞されている横穴墓が発見されることがあります。館出支群 I区35号墓は完全ではありませんでした。隙間から人骨や遺物が残っていることが確認できたため、発掘調査が行われました。その結果、玄室から人骨10体・薩手刀1点・刀子5点・鉄鏃19点・鉄釘181点・須恵器1点など、羨道部から須恵器57点、砥石1点が出土しました。



羨道部両脇にまとおかれた土器は、墓前の祭祀に用いられた土器の様子を伝える重要な遺物です。

